

# 松江第五中学校応援団実践報告書

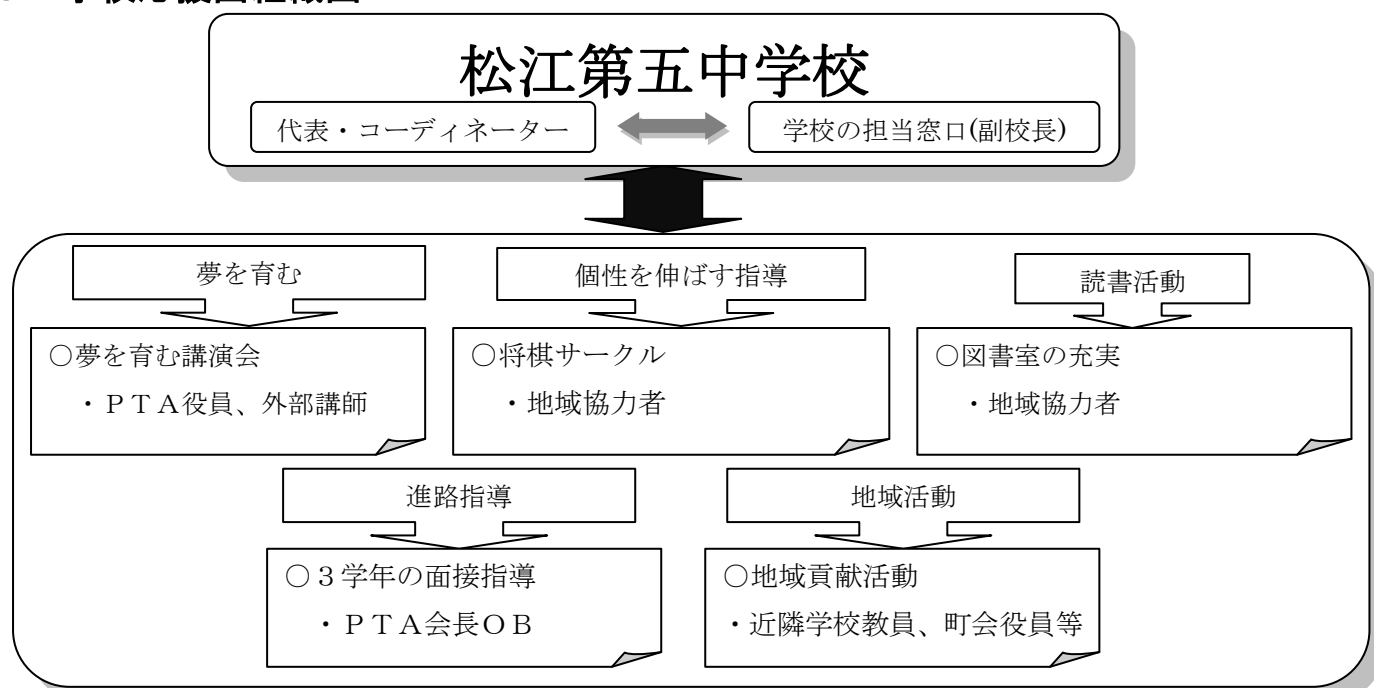
## 1 校長及び代表氏名

松江第五中学校長 新田 真起雄  
代表 鈴木 省一

## 2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
夢を育む	夢を育む講演会	○冬季オリンピック金メダリスト「荻原 健二」氏 ・題目 「夢に向かって」
個性を伸ばす指導	将棋サークル	○有志による将棋サークル ・対極 ・詰将棋
読書活動	図書室の充実	○図書室整理や本の整頓 ・仮校舎への引っ越しに向けての準備
進路指導	3 学年面接研修	○3 学年生徒対象の面接指導 ・作法、身だしなみ ・受け答え、中学生としての常識
地域活動	地域貢献活動	○バドミントン教室 ○小学校へ部活動の出前指導 ・陸上部、吹奏楽部 ○地域の運動会、祭等への参加 ・ソーラン節披露、模擬店出店、防災訓練

## 3 学校応援団組織図



## 4 今年度の成果と今後の課題

### <成果>

夢を育む講演会では、金メダリスト萩原健司氏が夢をもって努力することの大切さを熱く語ってくださり、多くの生徒が触発された。将棋サークルは、講師のきめ細かな指導により、集中力が身につき、勝負の厳しさや礼儀を体得できた。図書室の充実では、書庫の整理や荷造りに取組み、仮校舎への移設へ向けた準備が進んだ。3学年面接研修では、普段の学校生活では接触のない外部の大人との面接練習で、多くの生徒に望ましい緊張感が見られ、受験へ向けての意識が高まった。地域貢献活動は、地域の行事や取組に生徒並びに職員が参加し、親交を深めると共に「地域あつての学校」という意識が高まった。その他、卒業生による英語検定受検者への指導など学習活動にも協力を得ている。

### <課題>

「夢を育む」活動で、今年度は講演会を実施した。来年以降は、講演会に限らずテーマに添った取組も検討していく。「将棋サークル」は、受講生徒が総人数できめ細かな指導は受けられたものの、やや盛況に欠けた感は否めない。募集方法を考え受講生を増やしていく。「3学年面接指導」では、日数が多くかかるが、今回は、そのすべてをカバーすることはできなかった。地域貢献活動は、教職員が多忙な時節と地域の行事が重なることがあった。

## 5 代表より

昨年と比べ、取組項目が増え、内容も充実しています。私自身、3学年の面接指導に協力しました。どの生徒も緊張感は見られたものの、目を輝かせ、自分の進路に向かって真剣に取り組んでいる姿勢が伺えました。松江第五中学校は、私の母校であります。母校の後輩である地域の子供の活躍に期待しています。

## 6 副学校長より

来年度から仮校舎で過ごすことになり、校庭の問題など教育活動も制限されます。そのような事態に向けて、地域に協力を働き掛けてくれる「学校応援団」の方々に心から感謝しています。地域によって学校が生かされ、その成果を生徒に還元しています。「学校応援団」の活動を通して、学校と地域の連携の大切さを改めて実感しました。

## 7 学校長より

学校応援団の取り組みが、年々拡大、充実してきている。特に、陸上部の出前陸上教室から始めた小中の交流が、吹奏楽部の交流へとつながりました。来年度は、英語教育において生徒と児童の交流も考えているところである。また、地域祭りなどに積極的に参加することによって、中学生が地域の人材として地域に貢献する活躍する意欲や態度を養うことができました。次年度は、応援団の方々のお力をお借りして、図書館活動の充実を図っていきたいと考えています。このようなことが書けるのも、充実した活動をしてくださった応援団長さんはじめ、一之江の地域の応援団の方々のお蔭と、心から感謝いたします。